

通期の見通し

平成 22 年度の販売電力量については、4～6月の実績を踏まえ、平成 22 年 4 月に公表した想定値（2,857 億 kWh）を上回る 2,880 億 kWh を見込んでおります。

売上高については、電気事業において、販売電力量が増加するものの、通期の原油価格の見直しに伴い、燃料費調整制度によるマイナス調整額の増加が見込まれることなどから、前回公表した想定値（連結：5 兆 3,300 億円程度、単独：5 兆 1,100 億円程度）を、連結で 5 兆 2,900 億円程度、単独で 5 兆 700 億円程度に変更いたしました。

一方、費用面では、電気事業において、柏崎刈羽原子力発電所 1 号機の発電開始による原子力発電電力量の増加が見込まれることに加え、原油価格の見直しに伴い、燃料費の減少が見込まれます。

これらにより、経常利益は連結で 1,700 億円程度、単独で 1,500 億円程度、当期純利益は連結で 650 億円程度、単独で 550 億円程度に変更いたしました。

<連結>

売上高	5 兆 2,900 億円程度（前回発表予想：5 兆 3,300 億円程度）
経常利益	1,700 億円程度（前回発表予想：800 億円程度）
当期純利益	650 億円程度（前回発表予想：100 億円程度）

<単独>

売上高	5 兆 700 億円程度（前回発表予想：5 兆 1,100 億円程度）
経常利益	1,500 億円程度（前回発表予想：600 億円程度）
当期純利益	550 億円程度（前回発表予想：0 億円程度）

(注) 経常利益と当期純利益については、柏崎刈羽原子力発電所の全 7 基のうち、6 号機・7 号機に加えて 1 号機の運転計画も織り込み算定しております。